

グッドキャリア企業アワード2018

イノベーション賞受賞

[厚生労働省人材開発統括官表彰]

株式会社ナンゴー

We Improve!!

株式会社 ナンゴー

評価のポイント

自己研鑽への全面的なサポートと 社内コミュニケーションの充実による自律的取組の支援

経営者からのメッセージ

さまざまなキャリア支援に取り組むことで自社が成長してきました。今回の受賞は社員全員が取り組んで来た事を認めて頂いたものであり大変光栄に感じています。この受賞を通過点として、まだまだ未来に向けて向上し続ける組織でありたいです。

そして社会から存在を認められ感謝される組織で在りたいと願います。

代表取締役
南郷 真



企業概要

- 事業概要: 金属全般精密機械加工と
治具・省力化機械の設計製作
- 業 種: はん用機械器具製造業
- 所 在 地: 京都府宇治市
- 従業員数: 15人
(男性12人/女性3人、
うち非正規雇用1人)
- 平均年齢: 44.3歳
- 創 業 年: 1973年

キャリア形成支援担当者紹介

[キャリア形成支援の取組をして良かったこと]

自分のためだけでなく全員のことを考えて行動する風土になったこと。社員全員が同じゴールに向かって各々が着実に成長していることを実感できています。

[キャリア形成支援の取組で苦労したこと]

すぐに効果の見えない取組は苦勞しますが、全員でアイデアを出し合い、何度も時間をかけて全員が納得のいくまでブラッシュアップしていきます。

経営本部 企画チーム
野田 公平
担当年数: 5年



取組を始めたきっかけとこれまでの経緯

当社経営理念における「仕事を通じた向上」とは、単に技術面だけでなく社会人として仕事や生活面も含め、考え方や道徳心、向上心を養う力を「人間力」と定義し、それを高めていくことを要してきました。少人数の組織の為、大企業のようにOJTできる人材に余裕が無く全員で知恵を出しあい課題解決に取り組み、苦勞し蓄積してきた個人保有技術や各自の気づき、ノウハウ等を共有し可視化する事でOJTを補完できる仕組みを進化させ続けています。

具体的な取組

スキルマップをもとに自律的な研修支援！ 日々の感謝はサンクスカードで！

各自のスキルマップを作成し、自己評価と他者評価により現状を把握し、多能工化を見据え、自己研鑽のための研修活用を支援しています。研修は原則、上限を定めず全額会社負担とし、受講したいという希望を積極的に受け入れるようにしています。また、研修などに参加している間の業務を他の全社員がフォローできるように、各自が今抱えている業務内容を全社員が共有できる仕組みを構築し、不在による仕事の停滞や受講者の懸念をなくしています。また、知識の習得と技術力向上のため、加工に関する社内テストを毎月1回行い、単なるテストではなく、理解度をより深めるための工夫も凝らしています。

また、社員同士のコミュニケーションツールの一つとして、日頃感じた他の社員への感謝の念を手書きでしたための「サンクスカード制度」を導入し、相手の良いところを観ることで前向きな思考や周りをよく観察する姿勢ができ、貢献したことは感謝されるため、自律的に取り組む風土が醸成されています。



今後の課題と展望

性別・年齢を問わない働きやすい 社内環境整備

現状、弊社の製造現場は全員男性ですが、女性でも気持ちよく働いてもらうため、魅力のある労働環境への改善、また、性別・年齢を問わず社員全員が多能工化できる環境となるよう引き続き改善していく必要があると考えています。

熟練の高齢者の視点からの技術継承や、高齢者の短時間シフト、これに加え、今までは男性目線だけで見ていたものを女性ならではの目線でも見ることができるよう、多様な採用を積極的に進めています。

取組の効果

アウトプットやブラッシュアップによる 着実な能力の定着

参加した研修では、内容をレポートに纏め部署内にて報告会を行い、学んだ内容を共有すると同時にアウトプットできる体制を整えています。

社内テストでは、今まで何となくしか理解していなかったことが明確になり、理解度のチェックだけでなく、OJTの補完機能としても効果が出ています。単に問題に対する正解を知ることで終わるのではなく、主体的に考えられる能力を身に付けるために、より効果的な実施方法をブラッシュアップしています。また、「人間力」を養える「サンクスカード制度」により、相手の良いところを探し、「ありがとう」の気持ちを伝えることで、感謝の心をもつ大切さを意識させ、前向きで主体的に取り組む姿勢や人間力の向上に繋がっています。



社員の声

- Q1 自身のキャリアを考えるきっかけ(制度・出来事など)とは？
- Q2 その後、取り組まれたことや起こった変化とは？
- Q3 築いたスキルを今後どう活かしていくか、または将来ありたい姿とは？



製造部
旋盤チーム リーダー
木田 博久

A1 幾つかのプロジェクトリーダーを任されるようになり、現場の業務のみに従事するだけではなく、広い視野をもつ必要性を感じました。

A2 品質管理を任せてもらい、製品の品質向上や確実な検査体制を構築することができました。

A3 自分自身が得たスキルや知識を後輩に確実に伝えていきたいと思っています。



営業部
村上 祐希

A1 毎年の会社及び個人の目標設定において、近い将来の自分の姿を想像した時、新しいことにチャレンジしたいと思うようになりました。

A2 お客様へもう一步踏み込んだ提案が必要だと思い、会社と上司に相談し、すぐに社内・社外のサポート環境を作って頂き、現在も継続中です。

A3 技術的なスキルを着実に身に付けて、お客様のニーズに寄り添った提案ができる営業になります。